

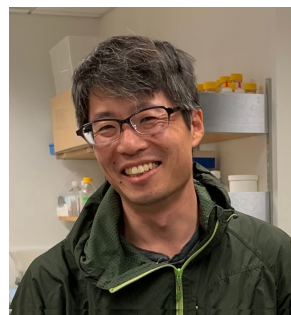
第17回 統合病理学教室セミナー

はやせ じゅんや

演者 **早瀬 純也 先生**

ペンシルバニア大学・博士研究員

演題



**肝細胞極性および毛細胆管伸長における
E-cadherinおよびN-cadherinの異なる役割**

2026年7月15日(水)17:00～

北大医学部 中棟 セミナー室 5-1

要旨

肝臓の大部分を構成する肝細胞は、上皮細胞に共通する細胞間接着装置と apical-basal 方向の細胞膜極性を備えています。一方で、肝細胞は代謝や胆汁分泌を担うという機能的特性に対応して、この極性を肝細胞特有の形態へと発達させています。特にapical膜は、一般的な上皮細胞に見られる複数の細胞にわたって広範な自由表面を形成するのではなく、隣接する二つの肝細胞間に小さな管構造 (毛細胆管)として形成され、肝組織全体にわたって伸長します。しかしながら、この毛細胆管構造がどのようにして維持されながら伸長するのかは十分にはわかっていません。

肝細胞のもう一つの特徴として、上皮細胞の主要な細胞間接着タンパク質であるE-cadherinに加え、間葉系細胞に特徴的なN-cadherinも同時に発現しています。私たちは、肝細胞の特異な構造がこの二つのcadherinの発現によって制御される可能性に着目し、細胞生物学的および生化学的解析からその作用機構の一端を明らかにしました。本セミナーでは、肝細胞の前身である肝芽細胞が発生過程のいつから肝細胞極性を形成し、さらにE-cadherinとN-cadherin をどのように使い分けて特有の構造を維持し発達させるのかについて紹介します。

参考文献: Wang et al. *J Cell Sci*, 2014, Yang et al. *Hepatology*, 2017,

Hayase et al. *J Cell Biol*, in press, Yang et al. *Nat Commun*, in press

責任者: 統合病理学教室 谷口 浩二 (内線5050)

E-mail: path1@med.hokudai.ac.jp